

# 保護者の保育ニーズとその対応に関する研究 II

須永 進・青木知史\*・齋藤幸子\*\*・山屋春恵\*\*\*

## A Study on the Parent's Needs for Day Care and to Deal with Them II

Susumu Sunaga , Satoshi Aoki , Sachiko Saito , Harue Yamaya

先の保育所の保育士を対象とする保護者の保育ニーズに関する研究を受けて、今回は幼稚園の教師を対象に行った。その結果、保育所同様に保護者による保育ニーズの多様化やそれへの対応に対し、教師が苦慮するケースの少なくないことが明らかになった。これに対し、多くの幼稚園および教師は、保護者に対し、話し合いや幼稚園の取り組みを説明するなどの対応を行っている。また、必要に応じて教師間での連絡を行い対応しているケースが少なくない。しかし、苦慮するケースでは、保護者と幼稚園や担当教師との意思の疎通が十分でないことがその背景にあることも改めて確認された。また、教師の一人はそうした保護者のさまざまなニーズの背景に「自分の子どもしか目に見えない」保護者の存在があると指摘するが、これは前回の保育所の保護者とも通じる点でもある。幼稚園の持つ役割・機能を踏まえつつ、幼稚園としての適切な対応や教師自身の対応能力を高めていく必要があると考えられる。

**Keywords :** 保育ニーズ、子育て支援、幼稚園

Needs for day Care , Child care support, kindergarten

### 1. はじめに

今日における保育に対する保護者のニーズは、多様化とその内容により保育全般への影響が懸念される事態が一部にみられる。先回の研究報告（「保護者の保育ニーズとその対応に関する研究 I」2009年）では、保育所の保育士を対象に質問紙による調査を行い、その実態の一端を明らかにしている。結果の詳細は、その研究報告を参照していただくとして、今回は社会的役割や機能の面では保育所と異なるが、幼児期の子どもにとって就学前の集団保育の場である幼稚園に焦点をあて、その保護者の保育ニーズについて調査を実施したので、その結果について以下のような報告を行うものである。

### 2. 研究目的

今回は、保育所とは異なる役割・機能が期待される幼稚園を対象に、保育にかかわる教師を対象に質問紙調査を実施し、幼稚園における保護者の保育ニーズの実情を明らかにするものである。

周知のように、幼稚園は満3歳から就学前の幼児を対象に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長

---

\* 秋草学園短期大学 地域保育学科准教授

\*\* 日本子ども家庭総合研究所 母子保健研究部主任研究員

\*\*\* 文部科学省 初等中等教育局教科書調査官

する」目的をもつ学校教育機関の一つで、児童福祉施設である保育所とは基本的に異なる存在として運営されている。そのため、保育（教育）方針や目的、内容・方法、保育時間等に違いはあるが、先回とほぼ同一の内容による質問紙調査を行い、幼稚園の保護者による保育ニーズの実際と教師の対応を明らかにすることを目的とし、2009年に実施した。

### 3. 研究方法

先の研究では、保育所の保育士を対象に質問紙調査を行ったが、今回は幼稚園の教師を対象に内容的には同様（用語の一部変更を行ったが）の質問紙による調査方法で実施した。調査対象の地域は、先回と同じである北海道・札幌市および東京都、埼玉県、神奈川県で、任意に選んだ11か所、および無作為に抽出した東京都私立幼稚園202カ所に調査協力を依頼した。対象は調査協力に同意を得られた職員のみとし、回答はプライバシーを配慮して個別の封筒により回収した。

### 4. 調査結果

今回の幼稚園の教師を対象とする調査結果を質問紙の内容にそってまとめると、次のとおりである。

#### （1）回答者数、属性その他（％）

今回の調査についての回答者数は女性109名、男性4名、不明1名の計114名であった。年齢別では、20代が62名（54.4）、以下30代25名（21.9）、40代15名（13.2）、50代8名（7.0）、60代以上3名（2.6）、不明1名（0.9）で、20代が全体の半数を超えている。回答者の職制別では、教諭が91名で全体の約8割（79.8）近くを占めているが、それ以外は、主任・副園長が11名（9.6）、園長5名（4.4）、その他7名（6.1）となっている。

次に、勤労形態をみると、不明者1名を除くと、常勤者は109名（89.8）、非常勤・パートは4名（3.5）、で今回の調査に限っては回答者の約9割が常勤勤務の形態で就労している。また、経験年数では5年未満が46名（40.4）、次いで5～10年未満は27名（23.7）で、両者を合わせると6割超を占めている。それ以下では、10～15年未満15名（13.2）、15～20年未満13名（11.4）、20年以上は12名（10.5）で、不明1名（0.9）であった。

回答者が担当しているクラスと子どもの年齢については、年少（3歳児）が23名（20.2）、年中（4歳児）25名（21.9）、年長（5・6歳児）28名（24.6）で、これ以外の「その他」は32名（28.1）、不明6名（5.3）である。今回の回答者の平均勤務時間は週46.9時間であった。また、この勤務時間以外の保護者への対応時間については、週平均で2.9時間要している。

回答者の最近の体調については、「まあよい」が45名（39.5）、次いで「良好」は40名（35.1）で、両者を合わせると、7割以上（74.6）の教師が体調がよいと回答している。それとは反対に、体調が不調と答えている割合は、「やや不調」の22名（19.3）を含め26名（22.8）であった（不明3名）。

また、仕事で困っていることや悩んでいることがあるかどうかについては、39名（34.2）が「はい」と回答している。反対に「いいえ」は、62名（54.4）であった（不明13名11.4）。

そのことについては26件の回答があり、そのうち主な事項として「仕事が忙しい」ことをあげて、「精神的なゆとりが持てない」「子ども一人ひとりにかかわれない」などが代表的な意見として6件みられた。次いで、職場での人間関係が5件、保護者とのかかわりと職員指導がそれぞれ4件となっている。また、クラス運営に関する悩みが3件のほか、自己の性格や給与の問題など、どちらかというとな個人的な悩みといった内容が散見された。

この仕事上の困った状況を相談できる人がいるかどうかでは、「いる」が108名で全体の94.7%に達している。「いない」はわずか3名（2.6）で、不明も同数という結果であった。相談相手については同僚が一番多く、複数回答ながら70%近い割合（69.4%、75名）になっている。次いで職場の先輩65名

(60.2) や主任・副園長 48 名 (44.4)、さらには園長 38 名 (35.2) など、職場の人的パワーに大きく依存している傾向がみられる。その一方で、幼稚園関係以外の家族や友人 56 名 (51.9) や他の職場の幼稚園関係者 (28 名 25.9%) など、外部の人をあげている回答者もみられる。

この他、「日頃の保育実践や保護者への対応の中で感じられることや、これからの子育て支援についての意見」に関する自由記述のうち、「保育実践や保護者への対応」では、例えば「予想外のことを要求してくる保護者がふえた」と感じるが、「協力してくれる保護者の多い」ことから、その対応にあたっては「保護者と信頼関係をきちんと築いていけることがニーズへの対応にもつながる」という意見に集約される。また、子育て支援についてはその必要性を認めつつも、最近では保護者のなかに「してもらうこと」「やってもらうこと」をあたりまえと思っている人が多いが、回答者の一人である教師の「ただ要求を受け入れるだけでなく、よく考え対応し、よりよい保育につなげていければ」という回答がここでの一つの結論と思われる。

## (2) 保護者の保育ニーズとその対応

次に、保育所同様に、幼稚園の保護者による保育ニーズについての実際の内容とそれらに対する教師の対応をその回答からみることとする。

回答にあたっては、「その他」を含め 6 項目とし、各項目ごとにそれぞれ「ニーズ (要求) 例」、「どのように対応しましたか」「対応に苦慮しましたか」の 3 つの項目に答えてもらう記述形式とした。その 6 項目は、「その他」のほか、①保育の内容 (教育、遊び、運動、生活指導など)、②保育の方法・形態 (預かり保育、病時、障害児など)、③食事 (食育を含む)、④教職員に対して、⑤保育の環境 (設備・職員配置など) について、である。

全体の回答数は 243 件で、その割合を各項目別でみると、①保育の内容 (42.1%)、②保育の方法・形態 (47.4%)、③食事 (54.4%)、④教職員に対して (25.4%)、⑤保育の環境 (30.7%)、⑥その他 (13.2%) という結果である。

### ① 保育の内容

幼稚園で行われる保育の内容についての記述をまとめると、次のとおりである (引用文はすべて原文)。

#### a. 教育的ニーズ

既述したように、幼稚園は幼児期にある子どもの保育を担う教育機関であることから、保護者によるニーズでは子どもの教育に関連するニーズを指摘する回答者が少なくない。例えば、「お遊戯等、他の子と同じくらい踊れるように」「平仮名の読み書きが出来るように」「鍵盤ハーモニカを指導して」「英語、体操、絵画等“お勉強”的なものを取り入れて」などである。こうしたニーズについては「個人指導をする」「年中・長の 2 年間で教材を使って平仮名の文字指導を」さらには鍵盤ハーモニカは「年長中心に取り組む」などの対応がとられている。また、小学校での英語教育の導入を受けて幼稚園に「英語を取り入れて」「英語あそびを」といった声を保護者から求められるケースがあると回答している。その対応では「園長に相談して」あるいは「保育の一環として行っている」などの回答のほか、「取り入れるつもりはありません」と、保護者のニーズを拒否する回答も一部みられる。一方、遊びや運動に関しては「走ったり、体を動かしてほしい」「戸外活動 (遊び) を多くして」「リズム遊びを取り入れて」「縄跳びを跳べるように」など、体を使う遊びへの指摘がみられる。これらに対してはリトミック運動や体操プログラムの導入を進める一方、子どもの様子を保護者に伝える対応をとっているという。さらに、生活指導の面では、「左利きなので、文字を書く時などは右利きに直したい」「箸の持ち方を教えて」といったニーズについては「側に付いて声をかけ、右で持てるよう見守る」「給食の時間に、まずはフォーク、スプーンで慣れさせてその後正しい持ち方を伝え」となどの対応がとられている。このほか、仲間外れやいじめなど「友だちとの関係について心配」という理由から、「気をつけて見て下さい」という保護者のニーズでは、「他の職員にも状況を伝える」と同時に、園での様子を保護者に伝えるなどの回答がみられた。

#### b. 外遊び

外遊びに対するニーズは、既に「教育的ニーズ」でもふれたが、他の項目に比べても保護者のニーズは低くはないが、なかには「危険な事はしない」「ケガをさせないで」「ヒーローごっこ等を禁止して」といった意見も保護者の側にはあるという。それに対し、「親の気持ちを聞きつつ・・・(子どもに)声をかけ」あるいは事前に約束させるなどの対応を行っている。

#### c. 身の回りなどの世話などの個別的な対応へのニーズ

基本的に幼稚園は、満3歳から就学前までの子どもが就園する場であることから、身の回りの自立については個人差があるにせよある程度できるという前提で進められている。しかし、現実には排泄や身の回りのことがまだできない子どももいて、保護者から個別にその対応を求められることがあるとの指摘がある。「まだ、オムツをしているので、オムツを外せるようにして」や「自分のことが自分でできるようにして欲しい」などがそれで、集団保育のなかでの個別的対応を期待している保護者のニーズのひとつといえるが、それらへの対応としては家庭との協力を得ながら「トイレでできるよう少しずつ促し、できた時に沢山ほめる」ようにする一方、自立に向けては「少しずつ自分でできるよう」な対応をおこなっているという。

#### d. 子どものしつけ

子どものしつけの例として幼稚園が「悪いことをしても厳しく叱らない」という保護者に対しては、「保護者の側の誤解もある」ことから「どう互いに理解し合えるか、検討中」という対応をしているとの回答であった。

#### e. 安全・けが・けんかなど

この項目に関しては、「ケガが多いので、ケガをさせないで」のほか、「友だちに仲間外れにされたり、叩かれる」といった友だちとの関係やけんかに関するニーズが散見されるが、ケガをさせないために「親の気持ちを聞きつつ、子どもにも落ちついて遊ぶよう声をかけ」る、またけんかについては保護者に「謝り、次の日の様子を伝える。その後は密にお話する」といった対応をとっているという。また、保護者のニーズのうち、「手がよく出る子に対し、自分の子どもとはあそばせないでほしい」という個人的ともいえるニーズに対しては「保護者の思いをよく聞き、共感したうえで、保護者の子どもと相手の園での関わりや様子を話す。相手の子どもの良い所なども話し、理解してもらおう」対応をとっているとの回答になっている。

なお、保護者の保育内容への対応についての記入は47名で、これらの件で対応に「苦慮した」ケースは23.4% (11名)で、「どちらともいえない」が17.0% (8名)、「苦慮していない」59.6% (28名)という結果である。

#### ② 保育の方法・形態

今回の調査に限っては、保育の方法・形態に関して幼稚園を利用する保護者のニーズのうち、いわゆる「預かり保育」への要望が他の項目に比べ、極めて多いことが明らかになっている。増加傾向にある保護者(特に女性)の就労人口と勤務形態・職種の多様化により、幼稚園の保育時間(標準4時間)を超えるニーズがその背景にあるものと思われる。例えば、「仕事優先で、預かり保育開始時間前に子どもを連れて」来たり、「終了時間を過ぎても迎え来ない」保護者がいると、その実際の状況を指摘する回答も一部みられる。

この預かり保育へのニーズでは、通常の保育時間前後の時間延長(開始時間前と終了時間後)の保育を希望する保護者のほか、休日や夜間の保育や夏や、冬、春の時期にある休業中の保育を希望する保護者も少なくないという。

こうした保育時間の延長に関しては、各幼稚園による対応が異なるが、その主なものとして「可能な限り保護者の希望」にそって対応する幼稚園がある半面、「仕事の時間を調整してもらおう」「難しく対応

できない」といった回答が散見された。また、この他「園長先生に伝える」「検討する」など、どちらかというと幼稚園として態度を明確にしていない幼稚園も一部にみられた。

次に多いニーズとしては、障がいのある子どもに対する意見で、「周りのみんなと同じ様に色々な事をさせ挙げたい」「発達障害の子に対し、補助の先生を一人専任でつけて」「障害があるようだとわれ早目に集団に入れた方が良くと言われたので未就園児の期間だけでも入れて」など、それぞれの理由や考慮してほしい事情による受け入れを求める内容が主になっている。対応としては、障がいのある子どもが「少し時間がかかってもできるだけみんなで様々な活動に取り組める様保育をしてい」くように、また、子どもの障がいの状態を判断して「一人補助をつけて対応」したり、相談の上、入園の方向に進展させるなど、障がいのある子どもに関しては配慮しているという教師の回答がみられた。しかしなかには、クラスに障がいのある子どもがいることについて「専門機関に通うように園から伝えてほしい」や障がいのある子どもがトラブルを起こしたことへの対応が他の保護者から求められたケースに対して「双方の保護者との話し合い」により、相互の理解を図るなどの対応を行っているという回答がある。

この他、縦割り保育へ要望などクラス運営や病気の際の保育に関するニーズがこの項目にみられた。

対応に苦慮したかどうかについての記入は54名で、「苦慮した」ケースとしては22.2% (12名)、「どちらともいえない」が42.6% (23名)、「苦慮していない」は33.3% (18名) という結果である(不明1名)。

### ③ 食事に関する内容

#### a. 食べ物の好き嫌いへの対応

保護者のニーズのうち、食育を含む食事に関して、子どもの好き嫌いにどういった対応を望む声が多いのかでは、「好き嫌いを直して」とそれとは反対に「嫌いなものは、食べさせないで」という要望が多く、その対応の主なものとしては前者が園での食事に慣れることを目的に、少しずつ食べられるように指導する方法がとられている。また後者でもほぼ同様の対応がとられているが、無理強いや負担にならないよう声かけをするなどの配慮をしているといった回答がみられた。

#### b. 子どものアレルギーと食事について

また、この食事へのニーズのうち少なくなかったものとしては、アレルギー対策への要望である。「食品アレルギーがある」「アレルギーを持っていて、給食のメニューで食べられない物がある」場合、対応としては「事前に給食のメニューや成分表をお渡し」、必要であれば除去食を用意する。また家庭に食育の大切さを伝え、弁当を持参させたり、代替のものを持ってきてもらうといった方法で解決を図っているなど、幼稚園側の食事への対応方法が明らかになっている。

#### c. 食事のしつけ

この他、食べ方や食事量、食べる時間など、食事のしつけなどへの指導を要望する保護者も一部みられるが、教師として個々に声をかけたり、家庭と協力しながら対応しているケースがほとんどである。

食事に関する保護者のニーズでは61名の記入があり、「苦慮した」割合は9.8% (6名)、「どちらともいえない」が23.0% (14名)、「苦慮していない」が63.9% (39名) という結果である(不明2名)。

### ④ 教職員に対して

幼稚園教育を担う教職員に対する保護者のニーズについては、次のとおりである。

#### a. 教師に対する対応への不満

まずはじめに、担任を含め教師への不満である。例えば「クラスの様子をもっと知らせてほしい」「たくさん遊んでほしい、しっかりしつけて」などがその一例である。こうしたニーズへの対応をみると、「クラス便りや園便りで知らせている」「子どもの成長に合わせて指導している」となっている。この他、新任教師に対する意見や教師のことば使いへの不満もいくつか指摘されている。

#### b. 個人的ニーズ

例えば、「うちの子をおこらないで」に始まり、「もっと自分の子を見てほしい」「泣いたりしていなくても側にいて」「他の子の前で叱らないで」など、個人的ともいえるニーズに対し、教師の多くは「子どもの様子をこまめに知らせて保護者が安心できるように配慮」しているという意見が主流であった。

#### c. トラブルへの対応

保護者の要望として「クラスの中で何かトラブルや喧嘩のあった場合（特にケガを相手にさせてしまった時）に教えて」に代表されるように、子ども同士のトラブルに対して保護者がその情報を知りたがっていることから、教師の対応も「必ず連絡を入れるようにしたが、相手のある事なので、その相手の方へも同様に連絡」するという対応をとっている。

なお、この教職員に対する保護者のニーズは記入者 28 名で、そのうち「苦慮した」ケースは、32.1%（9 名）、「どちらともいえない」25.0%（7 名）、「苦慮しない」32.1%（9 名）という結果である（3 名不明）。

### ⑤ 保育の環境

#### a. 人的環境へのニーズ

保護者のニーズのうち、幼稚園の設備や教職員の配置など、物的・人的環境については次のとおりである。

まず、人的環境については、1クラスの教師の数を増やしてほしいという保護者からの要望がある。現在の幼稚園では原則として、例えば入園年齢である満3歳から就学前までのクラスで園児35人以下に1人の配置基準になっている（ただし、近年入園の子どもの減少や園の判断により、保育所並みの20人以上に1人の割合で配置しているところもみられる）。保護者の側からは教師を増やして「もっと子どもをみてほしい」といったニーズがその背景にあるものと思われる。これに対しては、適正に担任が配置されていること、また必要に応じてフリーの先生が入るようにしていることを保護者に伝えて、理解をしてもらうなどの対応がなされている。

この他、保育者に「子育て経験者を」といった意見も一部の保護者にあるという。

#### b. 物的環境へのニーズ

他方、物的環境に関しては、門の取り付けや危険な遊具への対策など子どもの安全面への配慮のほか、トイレの設備、エアコンの設置など実際的な面に対するニーズがみられる。これらに対しては、「検討中」「早めに対応」していると、保護者に回答しているそうである。また、こうした保育上の環境整備に加え、保護者の意見を聞くための意見箱の設置を要望する保護者もいると、教師の一人は回答している。

この「保育の環境」についての記入は33名で、「苦慮した」ケースは、24.2%（8名）、「どちらともいえない」は30.3%（10名）、「苦慮しない」45.5%（15名）であった。

### ⑥ その他

「その他」の欄に記入した教師は14名で、そのなかでも「苦慮した」ケースは35.7%（5名）、「どちらともいえない」28.6%（4名）、「苦慮しない」28.6%（4名）である（不明1名）。

その内容をみると多様で、個人的ともいえるニーズとしては「園バスを家の前で停めてほしい」「制服のズボン丈を長くして」「通園バスの席を換えて」などがそれで、これらに対して回答者である教師は保護者に対して「事情を話して了承してもらった」「園に伝えた」「『安全の確認のため座席を指定している』ことを伝え、理解していただいた」と、回答している。

また、幼稚園の運営時間以外（休日中や休業期間中）でのトラブルや保護者同士の付き合いなどが幼稚園に持ち込まれるケースもあって「保育の方針に関わる事柄については、話しを受けたものの担任他の判断により、明らかな指導は、とらなかった」、また保護者間の問題については園長から「お互いに配慮しながら上手に付き合っ欲しい」という話を保護者にするなど、個々の事情にそった対応がされている状況が記載されている。

以上のように、保護者の保育に対するニーズを便宜上、その他を含め6つの項目に分類し、その回答をみてきたが、保護者のニーズの多様化と、なかには個人的あるいは個別的ともいえるニーズが少なくないことや、幼稚園の持つ機能と保護者の個人的ニーズへの調整に教師がどういった役割を果たしているかについても一部ではあるが明らかになったのではないだろうか。

### (3) 保護者による保育ニーズへの対応－基本の方針

こうした保護者の保育ニーズに対する幼稚園および教師としての基本の方針について、①幼稚園という組織全体としての対応と、②教師としての対応に分けて、その具体的な取り組みをみると、次のとおりである。

#### ① 幼稚園として

ここでは自由回答であるため、便宜上同じ内容をまとめて集計処理を行ったが、その結果は次のとおりである。なお、一人の回答者が複数の回答をしている場合があるため、人数ではなく、回答数とした。

	回答数	(%)
1. 保護者の話をよく聞いて対応している。	18	(25.0)
2. 幼稚園の基本方針を理解してもらい、それにそって対応している。	15	(20.8)
3. 職員会議等で話し合い、対応している。	13	(18.1)
4. 保護者からのニーズを（できるだけ）受け入れる。	11	(15.3)
5. 園長や副園長、主任の判断で対応している。	8	(11.1)
6. 子どもを第一に考え、対応している。	4	(5.6)
7. 幼稚園のマニュアルに従って対応している。	1	(1.4)
8. その他	2	(2.8)

幼稚園という組織としての対応については、「保護者の話をよく聞いて対応」するという回答が多く、これと同様に、どちらかという保護者の立場にたって対応している「保護者のニーズをできるだけ受け入れる」という意見を合わせると、4割に達している。また、幼稚園の保育方針や考えに照らして判断するという回答は、それに近い回答（上記の2、5、7）を合わせると3割強という結果である。判断に際し、職員全体で話し合うという回答は2割弱で、「子どもを第一に」という回答はわずか5.6%であった。なお、今回の回答を詳細にみると、例えば、保護者の意見をよく聞いて職員会議で検討したり、幼稚園の方針を説明し保護者のニーズを受け入れられるかどうか判断するなど、一つではなく、いくつかの対応策を講じているケースも少なくなく、こうした回答については、それぞれ該当する項目に振り分けて集計を行った。

#### ② 教師として

次に、教師として保護者のニーズにどう対応しているかについては以下のとおりである。

	回答数	(%)
1. 保護者の話をよく聞いて対応している。	12	(29.3)
2. 園長や副園長、主任に報告、相談後対応している。	8	(19.5)
3. 幼稚園の方針にそって対応している。	6	(14.6)
4. 幼稚園全体で話し合い、対応している。	5	(12.2)
5. 子どもを第一に考えて対応している。	4	(9.8)
6. 受け入れるかどうか判断してから対応している。	1	(2.4)
7. その他	5	(12.2)

以上の結果から、「保護者の話をよく聞いて対応している」姿勢は、幼稚園という一つの組織の一員であっても同様に、それ以外の対応をみても教師個人としての対応は少なく、園長や主任に相談したり、幼稚園の方針を念頭に対応するなど、組織のなかの教師の姿がうかがえる。また、「子どもを第一に考えて」の対応もわずか1ケタ（9.8%）にとどまっている。

### ③ その他

「その他」に関しては記入が3件と少なく、幼稚園教育の役割に関することや子どもへの共通理解の必要性に言及した内容となっている。

#### （4）保護者と保育ニーズにおける苦慮したケースと対応過程

次に、保護者のニーズに対し、苦慮を感じることがあるかどうかでは、「よくある」「時々ある」「たまにある」など、対応に保育者が苦慮するケースを合わせると、全体で66名57.9%の割合に達している。

そのうち、この1年間にあった苦慮したケース（SQ3-1）をみると、①保育の内容・方法（けがや、いじめ、けんかなどの友だち関係など）10件、②保護者に関する件12件、③健康・衛生5件、④個人的ニーズ5件、⑤教職員について2件となっている。

次の「連携先を含めて、対応過程と苦慮した点」（SQ3-2）を含めた回答内容については、次のとおりである。

#### ① 過去1年間での苦慮したケース（SQ3-1）

##### a. 保育の内容

子どものけんかについての内容では、保護者から「今後の対応を教えてください」やトラブルになった「子どもとは別のクラスにして」などのニーズが少なくなく、また、遊びでは特定の、例えば「ヒーロー遊び」や「戦いごっこ」はやらないでほしいといったニーズも一部みられるという。けがに関しては、「ケガをさせる子供」や子どものけがで保護者同士がトラブルになるケースのあることが教師から報告されている。

##### b. 保護者に関する件

先の保育の内容より多く回答のあった項目が保護者に関する件で、そのうち子どもに関連しては「おむつがとれるようにして」から、「給食のさい、自分の子どもとなりに座って食べてほしい」や「自分の子どもをもっと見て」「特別あつかいしてほしい」など、個人的なニーズがそれである。また保護者間に関しては母親同士が「気が合わない」「うまくいかない」ので「仲裁してほしい」といったニーズのほか、子どもの「バスの座席や遊びの時など、なるべく離してほしい」といった保護者間のトラブルが子どもの保育に影響するような要望を言って来る保護者のいることも回答にみられる。また、幼稚園の行事に反対するなど、非協力的な保護者についても苦慮しているという。

##### c. 健康・衛生

次に、子どもの健康や衛生についてのニーズでは、その年の病気、例えば流行性感冒が流行る場合にはその影響を受けるが、今回の調査でも「インフルエンザ」への予防対策に対する説明を求める保護者がみられる。また、幼稚園で共同で使用する、例えばコップなどの衛生面の改善にふれる保護者も一部いると回答している。

##### d. 保育者・職員について

このほか、教職員に対しては、噛みつきによる子どものケガについて「先生に問題があるのでは」と教師の対応に疑問を持たれるケースや、教師の保育の方法に不満を感じた保護者が「参観中に前にでてきて大声で注意」するなどの回答がある。また、教師に対して細かいニーズも求めてくる保護者の存在も若干みられるという。

このように、ここ1年間における保護者による苦慮するケースについては以上のとおりであるが、そ



の対応の難しさも伝わってくる内容になっている。

## ②対応過程と苦慮した点（SQ3-2）

上記の苦慮したケースについて、記入されている回答を参考にその内容をまとめると以下のとおりである。

### a. 保育の内容

はじめに、子どものけんかに関しては「主任に相談しつつ、対応したが、親が納得していくのに時間がかかって」苦慮しているケースのほか、クラスの変更に関しては「途中で変える事はできないので、しっかり対応」する、また「色々な友達と関わる中で育ち合っほしいという保育者側の思い」を保護者に伝えたが、「トラブルを事前に回避すべきという思いで苦慮した」といった回答がみられた。また、遊びについては保護者面接と子どもたちとの話し合いを行い、「保護者には、子ども達との話し合いの内容を話し、安全に十分に配慮をすることを条件に、しばらく様子見を、承諾してもら」うという対応がとられたが、その過程では「戦いごっこ＝イジメと感じてしまった保護者への声掛けには、苦慮した」と、この教師は述べている。

この他、ケガについてはケガ発生時の状況を見ていた子どもから聞いて、「お互いのお母さんと話し合った」が、ケガをさせた「親が心配症で、大げさに考えてしまった」ため、対応に苦慮したケースがあったそうである。

### b. 保護者に関する件

保護者のニーズのうち、個人的ともいえるケースではその保護者と話し合い、問題の解決を図っている教師は多い。その際、幼稚園の事情や子どもの様子などを詳しく伝えるようにしているという。また、保護者同士のトラブルでは、「お互いの話を聞き、中立の立場としてのアドバイスをし」たり、「時には、担任だけでなく、主任や子育て経験のある先生からも話を聞いてもらう」といった対応をしているという。その結果、「安心したり、気持ちが落ち着くようだ」「母親たちの関係も落ち着いた」と、その後の様子を述べている。

### c. 健康・衛生

子どもの健康や衛生については、例えば、インフルエンザに関する件や幼稚園で共同で使うものについては「保護者に対して手紙を出し、対策や状況を伝えた」り、消毒や洗浄など衛生面に気をつけていることを保護者に伝えるなど、それぞれの対応への理解を求めているという。

### d. 保育者・職員

幼稚園の教職員に対するニーズでは、子どもの噛みつきケースに対する対応で、保護者の「一日中子供にいて見てほしい」という要求に対し、できないことを伝えたが、その後「平行線のまま聞き入れてもらえなかった」という。また、保育参観中に保護者から注意を受けたケースでは、園長先生や主任から話をしてもらい、「直接あやまり、その後の電話で話を聞き、改善点を伝える」など、保育園および担当の教師自身の謝罪による対応がとられたケースもある。

以上の保護者によるニーズに加え、いわゆる保育時間の延長といった「預かり保育」への要望もみられるが、これに対する対応過程と苦慮した点についての回答はみられなかった。

## （5）教師による保護者観

これまでみてきたように、幼稚園の教師はそうした保護者をどうみているのか、という保護者観については、以下のとおりである。

なお、質問項目は18項目で、回答にあたってはそれぞれ4段階（1. 当てはまる、2. やや当てはまる、3. あまり当てはまらない、4. 当てはまらない）のうち1つを選択する方法になっている。しかし、全体の回答傾向を知るために、便宜上「当てはまる」「やや当てはまる」という肯定的意見群と、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の否定的意見群の2つのグループに集約し分析を行った。

#### ① 保護者の権利意識

はじめに、保護者の権利意識については、「強い」と思っている教師が 44.7%、そう思っていない教師は 52.6%という結果である。保護者の 4 割以上は権利意識が強いと教師はみているが、そう思っていない教師も半数以上いることもこの結果は表している。

#### ② 子どもとの接し方や遊び方について

次に、保護者が「子どもとの接し方や遊び方がわからない」とみている教師は 40.4%で、そう思っていない教師は 58.9%になっている。

#### ③ 幼稚園や教職員に対する難しい要求について

幼稚園に子どもを通園させている保護者が、幼稚園や教職員に難しい要求するとみている教師の割合は、55.3%と過半数を超える結果になっている。この割合を多いとみるかどうかについては、いまの段階では難しいが、少なくともその内容に一部無理のある要求のあることは、今回の調査から明らかになっている。

#### ④ 自己中心的

園児の保護者を自己中心的とみている教師は 64.1%で、日常的なかかわりを通じての判断であることから、少なくとも教師の 6 割以上は保護者に対しこうした見方をしていることがわかる。

#### ⑤ 子どもへの過保護・過干渉

保護者が子どもに過保護・過干渉と考えている教師は 80.7%を占めるなど、こうした傾向がこんにちの多くの保護者にみられるという。その一端は今回の調査でも保護者の保育ニーズに表れていたが、改めて他の項目に比べてもその割合の高さは際立っている。

#### ⑥ 子どもの言動に過剰な反応・対応をする

次に、保護者が自分の子どもの言動に過剰に反応したり、対応していると思っている教師は 71.1%いる。これは先の保護者の過保護や過干渉、しつけや教育に熱心といった結果との関連もあるものと思われる。

#### ⑦ 子どもを放任・無関心

これとは反対に、子どもを放任したり、無関心であったりする保護者がいるとみている教師は 19.3%で、そうした保護者のなかに幼稚園教育や園の行事に非協力的で無理解な態度を示すことがあるという。

#### ⑧ 子育てに負担感・不安感を持っている

子育てに負担感や不安感を持っている保護者は 35.0%で、そうでない保護者のほうが多いと思っている教師が 6 割以上いる。しかし、子育て中の保護者が不安や負担感を抱く子どもの年齢が 0 歳から 2, 3 歳くらいまでの間に多いことから、この年齢を過ぎている幼稚園児を持つ保護者としては、決して少ないとはいえないのではないだろうか。

#### ⑨ 子どもに容易に手をあげたり、大声でしかったりする

この質問に関しては、そう思う教師は 15.8%で、多いとはいえない。しかし、教師は保護者と子どもとの関係を始終みているわけではなく、送り迎えというわずかな間の観察という点からみると、必ずしもこの結果をそのまま受け入れるのは、難しい。しかしその反対に、この少ない時間での判断とすると、幼稚園以外で保護者が子どもにこうした対応をしていることも十分想像される。

#### ⑩ 保護者とのコミュニケーション

教師にとって保護者とコミュニケーションが極めて大切であることは周知のことであるが、実際にはコミュニケーションがとりづらいと思っている教師が 29.0%いる。すなわち、3 人にひとりの教師が保護者とのコミュニケーションがとりづらいと思っている。

以上が教師の持つ保護者観で、どちらかというとなマイナスのイメージについてである。次にプラスのイメージとしての保護者観をみると次のとおりである。

⑪ 子どもへのしつけや教育について

子どもへのしつけや教育に関して、熱心とみている教師は63.2%で、なかには家庭でのしつけを幼稚園に期待する保護者のいることもこの調査から明らかになっている。

⑫ 子どものお食事や健康に配慮

全般に、子どもへのしつけや教育とともに保護者の関心あるニーズに、食事や健康がある。子どもへの食事や健康に関心のある保護者はいると回答した教師は71.0%で、決して少なくない。

⑬ 子どものお生活リズム

子どもの心身の成長と発達にとって生活リズムは大切であるが、保護者がそう考えているかどうかについて教師の52.6%が該当していると回答している。

⑭ 父母（家族）が協力して子育てを

家族形態の変容や構成メンバーの少数化などが進むこんにち、子育てに家族の協力は不可欠になっている。このことについて保護者やその家族が協力していると理解する教師の割合は、86.8%と約9割に達している。

⑮ 子育てを楽しんでいる

現在の保護者が子育てを楽しんでいるとみている教師が82.5%と高く、子育てへの不安や悩みを抱える保護者がいる反面、こうした保護者のいることを指摘する教師が少なくない。

⑯ 幼稚園の教育方針に協力的

この質問に対しては、82.5%の教師が保護者の協力的態度を評価している。

⑰ 保護者同士の交流

通園している子どもの保護者にとって他の保護者との関係はますます重要になっている。この点についても今回の調査で明らかになっているが、この保護者同士の交流について、盛んであるとみている教師は88.6%、すなわち約9割の教師はそうみている。

最後に、「18. その他」については、特記すべきものがないので、省略する。

(6) 保護者と子育て支援

子育て世代にある保護者を支援する子育て支援に関して、幼稚園の教師はどのように考えているかについて、以下の結果になっている。

	人数	(%)
1. 子育てが難しい現在、すべての家庭を対象に今後ますます充実させるべき。	43	37.7
2. 子育ての責任はあくまで保護者やその家庭にあるので、それを補完する 必要が生じた場合のみ、限定的な支援が望ましい。	48	42.1
3. 保育の内容を充実させることで、幼稚園における子育て支援は十分である。	8	7.0
4. その他	8	7.0
不明	7	6.1

以上の結果から、保護者への子育て支援については「充実させるべき」という考えと必要な場合の「限定的な支援」とする意見が拮抗しているが、やや後者が多い。しかし、今回の『幼稚園教育要領』の改訂により、幼稚園での子育て支援はこれまでの「幼児教育に関する相談」に加え、新たに情報の提供や幼児と保護者との登園の受け入れ、さらには保護者同士の交流の機会の提供など、より具体的な役割・機能が明記されたことから、幼稚園が今後「地域における幼児期の教育のセンター」として、さらなる役割を果たすべきことが求められているものと思われる。

## 5. 考察

これまでみてきた幼稚園の保護者による保育ニーズについての教師の回答を、1) 保育ニーズの多様化の実態とその特性、2) 幼稚園および教師による実際的な対応と問題点、3) 苦慮するケースへの対応策などの視点から改めて考察することにする。

### (1) 保育ニーズの多様化の実態とその特性

幼稚園に子どもを通園させている保護者は、幼稚園や教師に対してさまざまな要望や思いを持っていることが今回の調査結果から改めて判明している。例えば教育的な要望として鍵盤ハーモニカや英語、体操など小学校就学に向けての内容から、遊びや食事、友だち関係さらには「おむつがとれるように」や「箸の持ち方が上手に出来ないのを教えて」といった身の自立に至る内容がみられる。なかには明らかに受け入れの難しいニーズもあって、幼稚園や担当教師にとってその対応に苦慮しているケースが一部みられる。

こうした多様な保護者の保育ニーズの特性の一つに、幼稚園の役割や機能を超えるものが少なくないということである。すなわち、幼稚園は幼児期の子どもの保育をその目的としているが、その運営形態は集団保育であることから、保護者の、個々の子どもに対するニーズをそのまま受け入れるケースは特別な事情のない限り難しいと思われる。しかしながら、すでに明らかにしていきかのように、どちらかというとい個人的で、自己中心的ともいえるニーズがないとはいえない。そうした背景には、保護者の幼稚園への思いや期待が大きいためか、あるいは自己中心的で他者への依存性の高い保護者が少なくないのか、いずれにせよ、今回の調査により、その一部が明らかになったといえる。

### (2) 幼稚園および教師による実際的な対応と問題点

このような多様な保育ニーズに対する幼稚園や教師の多くは、保護者の話を聞いて、必要に応じて職員会議で話し合ったり園長や他の保育者に相談し、対応している。特に受け入れが難しいニーズでは、こうした対応の一つひとつが大切であると同時に、ふだんからの保護者とのコミュニケーションも看過できない。

しかしながら、そうした対応に対処する上で考えるべき点をあえて指摘すると、次の3点である。

まず、人的パワーである教師の健康の問題である。子どもを保育するためには教師自身が心身ともに健康でなければならないが、今回の調査で体調について不調を訴えている教師が全体の2割を超えている。また、仕事上の悩みや困っていることのある教師は3割以上いることが明らかになっている。勤務時間についても、週時間50時間以上が全体で7割近くに達している。また、保護者への対応に、約3割の教師が1時間から2時間費やしているという。なかには、5時間以上と回答している教師が、約2割いるという結果である。

今後も保護者による相談や依頼件数の増加、保育へのニーズの多様化が予想されることから、まずは教師の置かれている現状を改善する必要性を指摘しておく。

次に、保護者への対応では教師のコミュニケーション能力を高めていく必要があるのではないだろうか。さまざまな生活背景を背負っている保護者への対応にあたって、この能力の向上は不可欠といえる。

3つ目に、幼稚園や教師の対応に求められるのは、危機管理能力や柔軟に対応できる能力である。保護者のニーズに的確に対応する必要がある。そのためには例えば、幼稚園の方針や理念に抵触するようなケースが持ち込まれた場合、それに固執するのではなく、保護者の話をよく聞いて、最善の解決に向けた対応をこころがける必要がある。また、ふだんより教師間での連携を図るなどの体制づくりも不可欠である。

### (3) 苦慮するケースへの対応策

これまでみてきたように、幼稚園の保護者による保育ニーズには、その対応に苦慮するケースが少なくない。今後こうしたケースがさまざまなかたちで増えることが十分予想される。それらへの対応策に

ついて以下のことが考えられる。

- ① 幼稚園に関して、今回改訂された『幼稚園教育要領』では、保護者への対応について詳しい記述はみられないが、例えば「幼稚園の目的の達成に資するため・・・家庭や地域における幼児期の教育の支援に努めること」と、その支援としての対応が求められている。また、その際には幼稚園の教育課程（保育の内容）に関して、その終了後における教育活動として「家庭との緊密な連携を図り」つつ、「保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識」を持つような支援であることが記されている。すなわち、幼稚園の保護者によるニーズをすべて受け入れるのではなく、そのニーズが幼稚園と協力して子どもの保育を進めていくことができるものなのかどうか、といった点が一つの判断基準になるものと思われる。したがって、すべて幼稚園任せな要求や保護者の一方的な都合だけによるものではないということである。保護者のニーズが「子どもの生活全体が豊かなものになり、また同時に保護者の子育て意識を高める要素を持つものであるかどうか、受け入れる幼稚園や教師の冷静な判断が求められる。
- ② そのためには、教師と保護者間と教師同士の意思の疎通が不可欠である。教師と保護者の間では、常日頃からコミュニケーションがとれる関係を築く努力をすることが大切で、その関係がよいと保護者の多様なニーズへの対応もスムーズに行くことが考えられる。また、実際の対応にあたっては、教師同士の関係も無視できない。今回の調査では、悩みや困ったことへの相談相手について、職場の同僚や先輩教師をあげている教師がそれぞれ6割以上いることから明らかである。
- ③ 教師の健康の問題  
次に、今後さらに多様化が予想される保育ニーズを受け入れ、適切に対応するために、教師自身が心身ともに健康であることが望ましい。教師の置かれている就労状況や人間関係、さらには体調管理などに目を向け、改善すべき点のある場合は速やかにそうした対応を図ることが必要となる。
- ④ 現任教員及び教員養成における取り組み  
さらに、現任教員への再教育として、実践を踏まえた研修や研究会の開催を定期的実施し、教師の質的向上を進めると同時に、近い将来幼稚園の教師を志している者に対する教員養成の場でも、「保護者及び地域住民その他の関係者」（学校教育法第24条）への対応能力を育成することが望まれる。具体的には幼児の教育に関する「相談に応じ、必要な情報の提供及び助言」（学校教育法第24条）である。

## 6. おわりに

以上のように、今回は幼稚園の教師を対象に保護者の保育ニーズとその対応について調査の結果を参考にまとめたが、今回の調査に限っていえることは、先回の保育所と同様に、保護者の保育ニーズは多様で、対応に苦慮するケースが少なくなく、多くの幼稚園や教師が、その対応にあたって保護者や必要に応じて教師間での話し合いを通してその解決を図っているということである。今後ますます保護者による保育に対するニーズは多様化と増加の傾向を深めていくことが十分予想される。幼稚園が幼児教育機関としての役割と機能を活かしながら、それを利用する子どもや保護者にとってかけがえのない存在になりうるかどうかは、こうした利用者のニーズへの対応がその一つの指標になることは確かである。また、その際対応策の中核に「子どもの最善の利益」という視点のあることを忘れてはならないだろう。

付記：今回の調査にご協力いただいた、北海道をはじめ、東京、埼玉、神奈川の幼稚園の先生方に謝意を表します。

## 参考文献

文部科学省『学校教育法』.

文部科学省(2008)『幼稚園教育要領』.

厚生労働省(2008)『保育所保育指針』.

須永 進、青木知史、齋藤幸子、山屋春恵(2010)「保護者の保育ニーズの対応に関する研究Ⅰ」『医療福祉研究』愛知淑徳大学医療福祉学部第6号, 89-110.

齋藤幸子、須永 進、青木知史、山屋春恵(2008)「保育所における保護者のニーズとその対応に関する調査」『日本子ども家庭総合研究所紀要』日本子ども家庭総合研究所第45集, 303-310.

表1 保護者の保育に対するニーズ（要求）例および対応策等の記入件数

	内容の記入あり		対応策記入あり	対応に苦慮
	件数	%*	%**	%**
1. 保育の内容	48	42.1	97.9	23.4
2. 保育の方法・形態	54	47.4	100.0	22.2
3. 食事	62	54.4	98.4	9.8
4. 教諭や職員に対して	29	25.4	96.6	32.1
5. 保育の環境	35	30.7	94.3	24.2
6. その他	15	13.2	93.3	35.7
計	243	—	—	—

\*回答者 114 名に対する

\*\*内容記入ありに対する

表2 保護者の保育ニーズに対する基本方針の記入件数

	内容の記入あり	
	件数	%
園として	71	62.3
保育者として	74	64.9
その他	3	2.6

表3-1 保護者の保育ニーズへの対応に苦慮することがあるか

	件数	%
よくある	9	7.9
時々ある	25	21.9
たまにある	32	28.1
ない	33	28.9
不明	15	13.2
計	114	100.0

表3-2 保護者の保育ニーズへの対応に最も苦慮した事例および対応過程等の記入件数

	内容の記入あり	
	件数	%*
最も苦慮したニーズ例	51	44.7
対応過程と苦慮した点	40	35.1

\*回答者 114 名に対する

表4 最近の保護者に対する印象

	当てはま る	やや当て はまる	あまり当 てはまら ない	当てはま らない	不明	合計
	%*	%*	%*	%*	%*	%*
権利意識が強い	11.4	33.3	38.6	14.0	2.6	100.0
子どもとの接し方や遊び方 がわからない	5.3	35.1	42.1	16.7	0.9	100.0
園や保育者に難しい要求を する	12.3	43.0	32.5	12.3	0.0	100.0
自己中心的	23.7	40.4	28.9	7.0	0.0	100.0
子どもに過保護・過干渉	23.7	57.0	17.5	1.8	0.0	100.0
しつけや教育に熱心	13.2	50.0	36.0	0.9	0.0	100.0
子どもの言動に過剰な反 応・対応をする	21.1	50.0	26.3	2.6	0.0	100.0
子どもを放任・無関心	1.8	17.5	54.4	25.4	0.9	100.0
子育てに負担感・不安感を持 っている	6.1	28.9	52.6	12.3	0.0	100.0
子どもに容易に手をあげた り、大声でしかったりする	1.8	14.0	50.9	33.3	0.0	100.0
コミュニケーションがとり づらい	4.4	24.6	51.8	19.3	0.0	100.0
子どもの食事や健康に気を 配っている	14.9	56.1	26.3	2.6	0.0	100.0
子どもの生活リズムを大切 にしている	11.4	41.2	45.6	1.8	0.0	100.0
父母（家族）が協力して子ど もを育てている	25.4	61.4	13.2	0.0	0.0	100.0
子育てを楽しんでいる	20.2	62.3	17.5	0.0	0.0	100.0
園の方針に協力的である	24.6	57.9	16.7	0.9	0.0	100.0
保護者同士の交流が盛んで ある	42.1	46.5	2.6	0.0	8.8	100.0

\*回答者 114 名に対する



表5 子育て支援に対する考え

	件数	%
子育てが難しい現在、すべての家庭を対象に今後ますます充実させるべきである。	43	37.7
子育ての責任はあくまで保護者やその家庭にあるので、それを補完する必要性が生じた場合のみ限定的な支援が望ましい。	48	42.1
保育の内容を充実させることで、保育所における子育て支援は十分である。	8	7.0
その他	8	7.0
不明	7	6.1
計	114	100.0

表6-1 回答者の性別

	件数	%
男性	4	3.5
女性	109	95.6
不明	1	0.9
計	114	100.0

表6-2 回答者の年齢

	件数	%
20代	62	54.4
30代	25	21.9
40代	15	13.2
50代	8	7.0
60代以上	3	2.6
不明	1	0.9
計	114	100.0

表6-3 回答者の職種

	件数	%
教諭	91	79.8
主任・副園長	11	9.6
園長	5	4.4
その他	7	6.1
不明	0	0.0
計	114	100.0

表6-4 回答者の就労形態

	件数	%
常勤	109	95.6
非常勤・パート	4	3.5
不明	1	0.9
計	114	100.0

表6-5 保育職としての経験年数

	件数	%
5年未満	46	40.4
5～10年未満	27	23.7
10～15年未満	15	13.2
15～20年未満	13	11.4
20～30年未満	9	7.9
30年以上	3	2.6
不明	1	0.9
計	114	100.0

表6-6 担当しているクラスの年数

	件数	%
年少	23	20.2
年中	25	21.9
年長	28	24.6
その他	32	28.1
不明	6	5.3
計	114	100.0

表6-7 回答者の最近の体調

	件数	%
良好	40	35.1
まあよい	45	39.5
やや不調	22	19.3
不調	4	3.5
不明	3	2.6
計	114	100.0

表6-8 仕事上困っていること、悩みの有無

	件数	%
はい	39	34.2
いいえ	62	54.4
不明	13	11.4
計	114	100.0

表6-9 悩みごとの内容の記入件数

	内容の記入あり	
	件数	%*
記入有り	27	23.7
記入無し	87	76.3

\*回答者114名に対する

表6-10 悩みごとがあるときの相談相手の有無

	件数	%
いる	108	94.7
いない	3	2.6
不明	3	2.6
計	114	100.0

表6-11 相談の相手

	件数	%*
同僚	75	69.4
職場の先輩	65	60.2
園長	38	35.2
主任・副園長	48	44.4
職場指定のスーパーバイザー	0	0.0
他の職場の幼稚園関係者	28	25.9
幼稚園関係者以外の家族や友人など	56	51.9
その他	6	5.6
不明	2	1.9

\*相談相手あり108名に対する

表 6 - 12 日頃の保育実践や保護者への対応で感じられることや、これからの子育て支援についての意見に関する記述件数

	内容の記入あり	
	件数	%*
記入有り	29	25.4
記入無し	85	74.6

\*回答者 114 名に対する

## 保護者の保育ニーズとその対応に関する調査票

以下の設問で、当てはまる項目の番号に○をおつけください。表や（ ）内にはご記入ください。

I. 保護者の保育に対するニーズ（要求）が多様化していますが、最近はどのようなニーズがありますか。1から6の各項目について回答してください。該当がない場合は「なし」とご記入ください。

	ニーズ（要求）例	どのように対応しましたか	対応に苦慮しましたか
1. 保育の内容 （遊び、 運動、生活 指導など）			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
2. 保育の方 法・形態 （預かり 保育、病 時、障害児 など）			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
3. 食事（食育 を含む）			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
4. 教諭や職 員に対し て			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
5. 保育の環 境（設備・ 職員配置 など）につ いて			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない
6. その他			1. はい 2. いいえ 3. どちらとも いえない

Ⅱ. 保護者による保育ニーズに対し、基本的方針としてはどのように対応していますか。

1. 園として

2. 保育者として

3. その他

Ⅲ. 近年、保護者による保育ニーズのなかには、その対応に苦慮するケースもあると言われていますが、貴園の保護者にそういったニーズをお感じになることがありますか。1つ○をつけてください。

1. よくある    2. 時々ある    3. たまにある    4. ない

上記で1～3をお選びの方にお聞きします。

SQ3-1 過去1年間であなたが最も苦慮したニーズ（要求）について、具体的にお書き下さい。  
前のページの設問Ⅰですでに記載の場合は、その番号を記入してください。

SQ3-2 そのニーズへの対応について、連携先を含めて、対応過程と苦慮した点をお書き下さい。

IV. ふだんあなたが接している保護者について、最近どのような印象をお持ちですか。以下の項目が当てはまるか否か1～4の該当する番号1つに○をつけてください。

1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 あまり当てはまらない 4 当てはまらない

1. 権利意識が強い…………… 1—2—3—4
2. 子どもとの接し方や遊び方がわからない…………… 1—2—3—4
3. 園や職員に難しい要求をする…………… 1—2—3—4
4. 自己中心的…………… 1—2—3—4
5. 子どもに過保護・過干渉…………… 1—2—3—4
6. しつけや教育に熱心…………… 1—2—3—4
7. 子どもの言動に過剰な反応・対応をする…………… 1—2—3—4
8. 子どもを放任・無関心…………… 1—2—3—4
9. 子育てに負担感・不安感を持っている…………… 1—2—3—4
10. 子どもに容易に手をあげたり、大声でしかったりする…………… 1—2—3—4
11. コミュニケーションがとりづらい…………… 1—2—3—4
12. 子どもの食事や健康に気を配っている…………… 1—2—3—4
13. 子どもの生活リズムを大切にしている…………… 1—2—3—4
14. 父母（家族）が協力して子どもを育てている…………… 1—2—3—4
15. 子育てを楽しんでいる…………… 1—2—3—4
16. 園の方針に協力的である…………… 1—2—3—4
17. 保護者同士の交流が盛んである…………… 1—2—3—4
18. その他ありましたらお書きください（ )

V. 幼稚園の機能のひとつに保護者（通常保育）に対する子育て支援がありますが、あなたのお考えに近い項目1つに○をつけてください。

1. 子育てが難しい現在、すべての家庭を対象に今後ますます充実させるべきである。
2. 子育ての責任はあくまで保護者やその家庭にあるので、それを補完する必要がある場合のみ限定的な支援が望ましい。
3. 保育の内容を充実させることで、幼稚園における子育て支援は十分である。
4. その他（ )

VI. ご記入者についてお尋ねします。

1. 性別 1. 男性 2. 女性
2. 年齢 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 6. 60代以上
3. 職種 1. 教諭 2. 主任・副園長 3. 園長 4. その他（ )
4. 就労形態 1. 常勤 2. 非常勤・パート
5. 幼稚園教諭としての経験年数は何年ですか。  
1. 5年未満 2. 5～10年未満 3. 10～15年未満  
4. 15～20年未満 5. 20～30年未満 6. 30年以上

6. 現在担当しているクラスの児の年齢を、お選びください。  
1. 年少 2. 年中 3. 年長 4. その他 ( )

7. 平均的な1週間の勤務時間は何時間ですか。残業を含めてご記入ください。  
1週間で ( ) 時間

8. 保育時間外で、保護者への対応にかかる時間はどれくらいありますか。  
(例：相談にのる、話し相手をする、電話で連絡する、要支援家庭への対応など)  
1週間で ( ) 時間くらい

9. 最近の体調はいかがですか。 1. 良好 2. まあよい 3. やや不調 4. 不調

10. 現在、仕事上困っていることや悩みごとがありますか。 1. はい 2. いいえ  
よろしければ、その内容をお書きください。

11. 仕事上、困ったことや悩みごとがある時の相談相手はいらっしゃいますか。

1. いる 2. いない

SQ11-1. 相談相手がある場合どなたですか。いくつでも○をおつけください。

- 1. 同僚
- 2. 職場の先輩
- 3. 園長
- 4. 主任・副園長
- 5. 職場指定のスーパーバイザー (職種は、 )
- 6. 他の職場の幼稚園関係者 (個人的繋がり)
- 7. 幼稚園関係者以外の家族や友人など
- 8. その他 ( )

12. 最後に日頃の教育実践や保護者への対応の中で感じられることや、これからの子育て支援などについてご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました